



輝き人生

このコーナーでは、輝きながら活躍する市民を紹介します。

ねんど 粘土に出逢えたことが幸せ

わたなべ かおり
渡辺 香里さん (和田町)



複雑な衣装や細部にいたる装飾など、粘土で手作りしていることに驚かされます。

「粘土に出逢って人生が大きく変わった」と話すのは、粘土工芸作家の渡辺香里さん。粘土に色をつけて、細工棒や伸ばし棒などの道具を使って、かわいい人形やお花などを作り上げていきます。作品の中には、『これが粘土?』と思うほど緻密かつ繊細に作られたものもあり、鑑賞する人を驚かせます。現在は、粘土の楽しさを広く知つてもらおうと、自宅や地域、東京などで教室を開いたり、作品展を開催したりされています。

○「渡辺香里粘土教室作品展」

11月30日(月)～12月4日(金)、
茶氣茶氣ギャラリー (JR亀山駅
前)で開催(午前10時～午後5時)

一始めたきっかけは?

「25年ほど前、たまたま友人に誘われ、始めたのがきっかけです。粘

土が、かわいい人形やお花に様変わりするのが夢のように思え、粘土の魅力に心奪われました。そこからは、講師の資格を取得し教室を開いたり、時に作品のイメージを膨らませるために海外の美術館を訪れるなど、粘土に夢中な日々を過ごしています。」

一粘土の良いところは?

「世界に一つ、自分だけの作品が出来上がることに喜びを感じます。さらに苦労して完成させた時の達成感はたまりません。また、粘土仲間や教室の受講生とワイワイ話し合いながら、作品作りに取り組むのも楽しいです。」

一作品を作る上で大変なところは?

「細かい作業を伴うので、少し集中力が必要です。また、バランスが大切で、例えば人形の眼・鼻・口の

位置や体の曲線など、わずかな違いで表情や全体の感じが変わってしまうのが難しいです。」

一渡辺さんにとって粘土とは?

「それまで引っ込み思案だった私が、粘土に出逢い自分を表現できるようになりました。また、粘土を通じて多くの人と知り合えて、人生に広がりを持たすことができ、とても幸せを感じています。」

一これからは?

「もっと多くの人に粘土の楽しさを感じてもらいたいので、いろいろなところで教室を開きたいです。子どもの頃に粘土で遊んだのを懐かしみながら、作品づくりを通じて、心豊かにそしてワクワクした気持ちになってもらえたなら嬉しいですね。」



市立図書館の本棚から

市立図書館
(☎82-0542)



『十字路が見える』

北方謙三／著

新潮社 (2015年6月刊)

肺結核を抱えて過ごした学生時代、誰にも読まれない原稿を書き続けた二十代、行き詰まりを感じて新たな可能性に挑んだ三十代。幾度となく十字路を超えてきた著者が、人生の豊穣と黄昏を綴る自伝的エッセイ。



『武道館』

朝井リョウ／著

文藝春秋 (2015年4月刊)

結成当時から「武道館ライブ」を合言葉に活動してきた女性アイドルグループ「NEXT YOU」。恋愛禁止、スルースキル、特典商法、握手会、卒業…。成長する彼女たちをシビアかつ熱を持った視線で描いた長編小説。

小説

- 肉と衣のあいだに神は宿る／松井雪子
- 丘の上の綺羅星／嘉門達夫
- 且坐喫茶／いしいしんじ
- nのマジック／安藤公章
- ボス・イズ・バック／笛本稜平
- 世界一おもしろい数の本／カリーナ・ルアール
- パパはまほうのケーキやさん／田島かおり
- 空はなに色／濱野京子
- かぜひいた…／小池アミイゴ
- 現代落語 おもしろ七席／齊藤洋
- 昭和天皇100の言葉／別冊宝島編集部
- 一日がしあわせになる朝ごはん／小田真規子
- クローゼットの引き算／金子由紀子
- 古代ギリシャのリアル／藤村シン
- 坊主の品格／北島義信 ほか429冊

児童

その他

～新着だより～